



新型コロナの影響で、例年のように教育活動を進めることが難しい状況が続いています。これまでに例のないことですので、それぞれの学校で全職員が知恵を絞り、いろいろな案を出しながら取り組んでいらっしゃると思います。

さて、今回のサポート通信では、

- ① サポート情報の効果的な利用法
- ② 支援の参考資料
- ③ 通常学級での特別支援教育

の3点について、お願いと情報提供をします。

① サポート情報の効果的な利用法

教育相談センターからお渡ししている「個別の指導計画：原案」「個別の支援計画」（本年度より「サポート情報」に名称変更）を、より有効に活用していただく方法を紹介します。



サポート情報では、対象児についての様々な情報の中に、右のような子供の特性に応じた「合理的配慮」を載せています。これらは、検査および子どもの様子から特性を判断し、それに応じた配慮を示しています。保護者と相談して作成していますので、大きく外れることはないと考えています。校長及び特別支援コーディネーター、そして、担任になられた先生は、入学式前に読んでいただき、支援の参考にいただければと思います。

以上は通常の活用方法ですが、これをさらに有効に活用していただくために、右のような配慮を多くの職員で共有していただけたらと思います。

右に書かれている配慮は、対象児だけでなく多くの子どもたちにも有効な支援です。特に、低学年の子どもたちには必要ではないでしょうか。これらの支援を



先生方が意識することで、子どもたちの笑顔が増えるのではないかと考えています。ぜひ、皆さんで共有し、実践してみてください。

合理的配慮

●本児の特性

- ・知的な力は平均的にあり、真摯に受け答えをしようとする
- ・得意なところ、苦手なところが、はっきりしている

□支援・配慮

- ・視覚情報を添え、事前に説明・約束をしていく
 - : 授業のはじめに、流れを説明する
 - : 活動・作業の順番を黒板等に掲示する
 - : 守るべきことを言葉で説明しながら掲示をする
- ・視覚・聴覚情報を調整し、指示理解状況を把握できる環境にする
 - : 余分な視覚情報が入らないよう、座席位置を前列にする
 - : 教室前掲示の情報を授業中は隠す
 - : 教師の指示一つに対し行動を一つにし、理解状況を把握する
 - : 学習時には静かな室内にする・細かな作業等への対応をする
 - : できる状況を把握し、適切な課題量、教師による支援をする
 - : 文字等の筆記で「とめ、はね、はらい」を大目に見る
- ・できなさに対する級友からの指摘をなくす
 - : 教師対応が見本となり、級友からの負の刺激をなくす
- ・体、手先の動き等、ぎこちなさへの対応
 - : 体育の授業では、動きのぎこちなさに注目するのではなく、頑張っていることへ注目した声掛けをしていく
 - : 創作した作品の完成度の評価について配慮をしていく

●苦手なこと

- ・本人の意思に反し動き出すことがある
- ・他の刺激が気になってしまう

□支援・配慮

- ① 対応策：「手はおひざ」という事前の約束、動き出したとき「お約束は？」の声掛け
- ② 対応策：合理的に動くことができる機会を作る（プリント配りなどの指示をする）

※二次的な症状が出ないように対応策

- : 失敗経験の積み重ねをなくす課題の設定をする。叱責注意については、特別な配慮をし、「褒める」ことで安定し、自信をもって取り組める生活や学習にしていく。

（「個別の指導計画：原案」「個別の支援計画」より）

② 支援の参考資料

前回の「サポート通信」でもお知らせしましたが、発達障害教育推進センターのホームページを見てみてください。先生方が困りそうな場面についての指導例が載っています。「学習面」について10場面、「行動面」について8場面、「社会性」について9場面について、詳しく述べられています。それぞれ、

- A 具体的なつまずきの例
- B つまずきをみるポイント（アセスメント）
- C つまずきの背景にあると思われる要因
- D 具体的な指導・支援の例
- E 行った指導・支援の意味

の5つについて、分かりやすく書かれています。

また、「LDのある子どもの指導・支援」「ADHDのある子どもの指導・支援」「自閉症のある子どもの指導・支援」についても、様々な場面での指導・支援が書かれています。

例えば

- ・パニックを起こすのですが・・・
- ・質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまうのですが・・・
- ・授業中や座っているべきときに席を離れてしまうのですが・・・

などです。

ぜひ、参考にしてください。

※ ホームページの検索方法

- ① [発達障害教育推進センター](#)のHPを開く
- ② 上部に並んでいる項目の左から2番目にある[指導・支援](#)をクリック
- ③ 縦に並んでいる6項目の上から3番目の[学校における指導・支援](#)をクリック

③ 通常学級での特別支援教育

これは、東京都立の特別支援学校の川上康則先生が、「みつむら web magazine」に投稿している連載の題になっているものです。この投稿の狙いは、「通常学級で特に気をつけたい特別支援教育のポイントを、新任・若手の先生方に向けて解説」することですが、だれが読んでも参考になる内容になっています。

第1回の「子どもはルールよりも「ラポール」にしたがう」のように、教育の本質的なことから、第9回

の「なんでオレだけ?!」に対する指導」のように、具体的なことまであります。現在47回まで進んでいますが、まだ継続中です。ぜひご覧ください。

下は、第45回に載った川上先生の詩です。

教師でいるということ

教師でいるということ。

それは、
心が折れるような経験を
たくさん経て成長するということ。
だから、
今日より明日を楽しみにできる人
ほど向いている。

教師でいるということ。

それは、
やるべきことが山積みなのに、
時間がほとんどないということ。
だから、
退屈な人生を送ることが苦手な人
ほど向いている。

教師でいるということ。

それは、
人の生き方の多様さを知り、
人が生きる意味を学ぶということ。
だから、
あらゆることに好奇心を示せる人
ほど向いている。

教師でいるということ。

それは、
人の人生に立ち入り、
変化をもたらすということ。
だから、
計り知れない責任を厭わない人
ほど向いている。

教師でいるということ。

それは、
突然の予期せぬ出来事においても、
教育の火を絶やさないとこと。
だから、
思考し、世界観を更新し続けられる人
ほど向いている。